

研究協力をお願い

昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

ロボット支援前立腺全摘術における神経温存術式が患者アウトカムに及ぼす影響の検討
1. 研究の対象および研究対象期間 2024年1月1日から2028年12月31日までの期間に昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院泌尿器科でロボット支援前立腺全摘術を施行された患者さんです。
2. 研究目的・方法 ロボット支援下前立腺全摘術が保険収載され、昭和医科大学病院では2013年より、昭和医科大学江東豊洲病院では2024年より、開腹（ミニマム創）前立腺全摘術からロボット支援手術へ移行しました。また手術支援ロボットを使用することで、より繊細な手術操作が可能となりました。今回我々は神経温存術式が男性機能温存のみならず、早期尿禁制獲得におよぼす有効性や、手術の安全性や癌制御への影響も含めた治療成績を、臨床的に後ろ向きに比較検討する事といたしました。本研究は学術研究であり、診療情報を利用します。診療情報は病院内の診療録管理室にて「研究に用いる情報の種類」に記載しました情報を取得いたします。
3. 研究期間 昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2029年6月30日まで。
4. 研究に用いる試料・情報の種類 患者背景（年齢、入院日、退院日、入院期間、身長、体重、BMI、術前のPSA、生検結果、cTNM）、手術所見（手術時間、出血量、輸血の有無、神経温存術式の有無などの手術内容）、摘出検体病理所見（神経血管束の厚みの測定値）、血液検査項目（抹消血検査、生化学検査）、予後（手術後再発の有無、再発後の追加治療内容と経過、治療後死亡の有無）、術中術後合併症の有無と内容を調査します。
5. 外部への試料・情報の提供 該当いたしません。
6. 研究組織 研究責任者 永田 将一 研究分担者 野口 哲夫 研究分担者 山岸 元基

研究分担者 中神 義弘
研究分担者 押野見 和彦
研究分担者 森田 將
研究分担者 深貝 隆志
研究分担者 南雲 佑

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学泌尿器科学講座 氏名：永田将一

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8560